

千田会長が 10 期目続投 岩手県人会第 58 回定期総会



あいさつする千田会長(右から2人目)

来年創立 60 周年と移住100周年

ブラジル岩手県人会(千田曠暁会長)の「第 58 回定期総会」が、12 日午前 10 時半(第2次招集)からサンパウロ市リベルダーデ区の同県人会館で行われた。同県人会は来年、創立 60 周年と県人移住100周年の節目の年を迎える中、役員改選では現職の千田会長が 10 期目の続投となった。

開会に先立ち、先亡開拓者への黙とうを捧げ、続いて千田会長が開会のあいさつに立った。千田会長は、昨年亡くなった1世会員らの名前を挙げ、「1世がどんどん減り、寂しく感じている」と思いを述べた。そんな中、昨年の各行事が会員らの協力で成功したことに感謝。「今年も皆さんと一緒に会の発展に尽力し、母県や世界の岩手県人会と交流できたらと思います」と話した。

続いて、議長と書記任命が行われ、議長には多田マウロ氏、書記には平野マリア氏と大関輝子氏を選出。総会には 24 人の会員が出席した。

2016年度の事業報告に続いて、昆野ワシントン第1会計から会計報告が行われた。昨年度の収入は 20 万4779・73 レアル、支出は 17 万9595・61 レアルとなり、2万5184・12 レアルが次年度に繰り越された。17 年度予算には 18 万3000レアルが承認された。

理事会提案では、会費を年間 90 レアルから100レアルに上げることが提案され、会員らからの拍手で承認された。

役員改選では、多田議長から千田会長の続投が推薦され、会員らの拍手で承認された。千田会長は、同じ会長が続くと県人会のマンネリ化を引き起こすとしながらも、「後進がないにも関わらず、無責任に投げ出すこともできない。皆さんの協力を得ながら、次世代に引き継ぐため頑張りたい」と述べ、また今期が恐らく最後になるだろうと示唆した。

10 期目となった千田会長は「日本人移民110周年実行委員長に、県人会前会長である菊地義治氏が就任した。それに刺激を受け、もう1期頑張ろうと思った」と続投を決めた経緯を話した。来年、岩手県人会は創立 60 周年と県人移住100周年の節目の年を迎える。今年から準備を始める意向で、日伯2カ国語の「母県にも資料として残るような」記念誌制作を計画している。千田会長は会員からの寄稿を呼びかけ、「盛り上げるためにも早めに準備を行っていききたい」と決意をにじませた。

役員に関しては今後決める予定だが、「大きな変動はない」(千田会長)という。

サンパウロ新聞 2017年2月18日付

モザイク 2017年2月18日付

2017年2月20日 サンパウロ新聞

岩手県人会館には「ふるさと図書館」が併設されている。会員、非会員問わず、誰でも無料で借りることができ、移住者から駐在員まで幅広い人から好評を得ている。面白いのは各所で不要になった書籍が、最終的にこの図書館に流れ着くこと。埼玉県人会の尾崎会長も図書館利用者で、あるシリーズ物の本を読んでいたら「埼玉県人会」の判が押されており、驚いたという。「恐らく、以前の県人会事務所にあった本だろう」と話し、巡り巡って、ここにたどり着いたようだ。尾崎会長は、すべての本にカバーが取り付けられていること、コンピューターで蔵書点検ができることなどを挙げ、「なかなかボランティアでもできない」とその仕事ぶりに賛辞を送った。昨年は4177冊、延べ947人に本が貸し出され、同県人会館の昨年の来館者は3802人になっている。いつ行っても誰かが本を読んだり、顔を出しており、憩の場になっている。

岩手県人会の総会後には新年会が開催され、集まった会員やその子弟らで賑わった。そこでモザイク子が出会ったのが、モジ市から来ていた菊地達朗さん。岩手県から移住して 63 年のベテラン移住者。今も農業に勤しんでいるという。話していると、日本の最新情報に詳しくだったので、「インターネットを駆使する最近のおじいちゃんかな」と判断。70代後半から80代前半かと思いきや、もうすぐ90歳を迎えると聞き、驚いてしまった。日本についてはNHKから情報を得ているとか。当日は奥様と共にバスとメロを乗り継いで聖市に来ており、地元では車の運転もするそう。まさに、元気そのものである。同年代では亡くなる友人が増え、寂しい一方、県人会に来ると、自分より年下の会員らと思う存分日本語が話せて嬉しいとか。「何事にも感謝」するのが長生きの秘訣で、「この勢いだと100歳まで生きそうだ」と笑顔で話した。菊地さん、また来年の総会で会いましょう。